

## 第5学年 国語科・総合的な学習の時間（国際理解） 学習指導案

日 時 令和5年11月2日（木）第3校時  
児 童 5年A組 26名・5年B組 26名  
指導者 西村 弦・河瀬 結

### 1 単元名 大空学園SDGs はじめの一步

### 2 単元について

本単元は、日本におけるSDGsの達成度に目を向け、課題となっている項目の達成度を高めるための手立てを考え、学園・地域・家庭で実際に提案・実践を進めていく。また国語科と総合的な学習の時間で教科横断的に自分の学園をより良くする取組を通して、持続可能な世界をつくる行動者としての第一歩を踏み出す姿を目指す。

本学年は学年全体として落ち着いた学園生活を送っており、学習に対しての意欲も高い。またエジプト国籍の学園生が2名在籍しており、日常的に世界の文化や言語に触れられる環境で過ごしている。第4学年の総合的な学習の時間にSDGsの概要について調べ、新聞にまとめる活動をしており、本単元を学ぶ環境は非常に恵まれている。

一方で、自己調整力に課題があり、自分で課題を見つけたり調べたりする活動に戸惑いを感じる学園生が多い。例えば、国語科の定期テストの振り返りアンケートでは、「勉強はしているが、結果につながっていない」と感じる学園生が半数以上にのぼっている。つまり意欲はあるが、学び方がわからなかったりメタ認知できなかったりという課題に直面しており、この傾向が進級に比例して強くなることを危惧している。

本学園では、第5学年より教科担任制を導入しており、4月からの半年間でもそのメリットは学園生も指導者も十分に実感している。まず、複数の指導者が学園生に関わることによる安心感の高まりが挙げられる。そして指導者が担当教科の教材研究に専念し、より質の高い教科指導に必要な授業準備ができる。さらに、同内容を複数回指導することで、授業に対する学園生のさまざまな反応や理解度を把握しながら、次の授業に向けて改善を重ね、さらに質の高い授業につなげることも可能である。

一方、教科担任制になると、他教科の進捗状況や学園生の様子を把握しにくく、教科等横断的な学びの積み重ねが難しい。本単元では、これらのメリットとデメリットを再認識し、国語科と総合的な学習の時間との連携を取りながら、教科等横断的な学びを通して、学び方を身につけ、実践的な活動に取り組み、自己調整力の向上を目指していく。

これらを達成するために、本単元では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を目指していく。「個別最適な学び」を進めるには、学び方の習得と自分の考えをもつことが重要である。課題選択の場面を設定し、一人ひとりの興味関心にあった課題だったとしても、どのように取り組めばよいかわからなければ、学習意欲が減退してしまう。課題だけではなく、「最適」な学び方があって初めて「個別最適な学び」は成立すると考える。そこで本単元では、課題選択の前段階で共通課題に取り組み、調べ方やまとめ方、発信の方法などを全体で指導する。この過程を経ることによって、

学園生一人ひとりが自信と安心感をもって選択した課題に取り組みやすくなる。また、共通課題の段階で、学園生の実態把握ができ、授業計画の改善にいかすことも可能である。この部分は、国語科「たがいの立場を明確にして、話し合おう」「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう」の2単元を中心に学習を進める。

「協働的な学び」については、より多くの視点や考えと出会う場づくりとして、様々なグループ分けで活動を進める。活動内容によっては指導者が意図的にグループを構成する場合もあるが、できる限り学園生の自律的な動きを目指している。「個別最適な学び」を通して出てくる疑問や困り感を解決する過程で、他者とつながることの価値を実感させることがねらいである。こういった自立的要素の強い「協働的な学び」が、自己調整力を高めるために有効な刺激になると考えている。

本時では、課題内容、進行状況、活動規模など一人ひとりが「違う」学習状況が想定される。学園生が自己調整しながら活動する姿を目指し、自立的な活動が困難な学園生には省察したり一歩踏み出したりできるようサポートを進めていく。具体的な手立てとして、進行順や取組方法、お互いの状況が把握できるように掲示したりデータを共有したりする。また、学園生の活動をより活性化につながる指導ができるよう指導者間の情報共有を徹底して授業に臨む。

### 3 国際理解の目標

- B A S I C - 1 (地理的項目－知識・理解) ⇒ 【intake活動】  
SDGsの概要や日本および諸外国の取組状況を知り、その主たる要因を理解する。
- B A S I C - 2 (文化・言語的項目－体験・経験) ⇒ 【output活動】  
諸外国と学園の実情を調査・比較することで、自分事としてSDGsと向き合い、様々な価値観を体感・実感することができる。
- B A S I C - 3 (情報発信・行動的項目－表現・意識) ⇒ 【outcome活動】  
自己選択した課題を学園で達成するために、諸外国の取組を調べ、それらを手掛かりに、提案・実践・調査を繰り返し、持続可能な世界をつくる行動者としての第一歩を踏み出す。

### 4 単元の目標

#### (1) 単元全体の目標

自分の学園をより良くする取組を通して、持続可能な世界をつくる行動者としての第一歩を踏み出す。

#### (2) 教科・領域ごとの目標

	知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に学びに向かう態度
国語科	○情報と情報の関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を	○目的や意図に応じて、日常生活の中から課題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。 ○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。	○粘り強く互いの立場や意図を明確にしながらか、学習の見通しをもって、身の回りの問題を解決するために調べたり話し合おうとしたりしてい

	理解し使うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。</li> <li>○目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。</li> </ul>
総合的な学習の時間	○学園や地域の現代的な課題及びそれに携わる人々の願いがわかる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学園や地域の人々等の思いを踏まえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しをもって追及できる。</li> <li>○視点を明確にして、事実や関係と整理した情報を関連付けたり、多面的に考察したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見つけることができる。</li> <li>○学習の仕方を振り返り、学習や生活にいかすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決に向けて、他者と協働して探究活動に取り組み、その大切さに気付く。</li> <li>○探求活動を通し、自分と実生活・実社会の問題解決に取り組もうとする。</li> </ul>

## 5 大空学園の研究にかかわって

本単元では、日本のSDGsにおける課題となっている項目を解決策のひとつとして、すでにその項目を達成している諸外国の取組を参考にする。その際に、日本でもその取組が有効であるかを考えたり、文化の違いから日本に適しているかを判断したりする場面が想定される。その過程で、自国の文化と自国と異なる文化を比較したり異文化を認めたり自分の文化の価値に気づいたりできるようにする。

また、単元後半では、学園・地域・家庭に対して実際に提案・実践・調査・改善を進める活動を行う。自分たちが考えた提案や取組を改善する機会が保障されることで、根拠となっていた自分の考えや行動を省察する場面が想定される。このように、「自分にできること」を考える場面を意図的に設定することによって、主体的に国際社会に参加しようとする態度をもつことができるようにする。

これらの活動を通して、自国の文化を大切にすると共に異文化や多様性を尊重し、主体的に行動しようとする学園生の育成を目指す。

## 6 指導計画

学習段階	授業の展開	評価の手立てと観点 □評価 ◆手立て
1次 8時間 (国語6総合2) (知る)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の基盤となる情報を全体で確認する。</li> <li>・共通課題に取り組み、全体で課題解決の流れや手立てを学ぶ。</li> </ul>	<p>□学習活動の過程や成果を記録したデータによるポートフォリオ評価 (google ドキュメント・スライド・フォームなど)</p>
2次 10時間 (国語6総合4) (考える)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択した課題に取り組む。</li> <li>① 日本の現状を詳しく調べる</li> <li>② 日本の対応策を調べる</li> <li>③ 達成国の現状や取り組みを調べる</li> <li>④ 日本の現状解決に向けた手立てを考える</li> <li>・調べた内容を共有する。</li> <li>・共有した情報をもとに、学園や家庭、地域で自分ができる取組・発信を考える。</li> </ul>	<p>◆共通課題に取り組むことで、児童の実態を把握し、3次での学習支援をより具体化する。</p> <p>◆自己選択することで、活動への意欲を高めると同時に、交流場面では様々な視点に触れる機会を保障する。</p>
3次 10時間 (国語2総合8) (伝える) 【本時】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報をもとに考えた取組を校内、家庭、地域に発信し、意識の向上や課題解決を目指す。</li> <li>・提案→実践→分析→改善を繰り返し、よりよい活動を探求する。</li> </ul>	<p>□実際の活動の様子によるパフォーマンス評価 (google ドキュメント・スライド・フォームなど)</p> <p>◆実践を振り返り、改善する時間を確保することで、粘り強く取り組んだり、自分を見つめ直したり意識を高める。</p>
4次 2時間 (総合2) (つなげる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して、何に気づき、何を得たのかをふりかえる。</li> </ul>	<p>□ふりかえりシートによる自己評価及び相互評価 (google ドキュメント・スライド・フォームなど)</p> <p>◆学習活動での学びが、どのような場面で高めたり生かしたりできるかを、具体的にイメージすることで、学びの価値を高める。</p>

## 7 本時の目標

- 学園や地域の人々等の思いを踏まえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しをもって追究する。

## 8 本時の展開

主な学習活動	□評価 ◆留意点	●国際理解の活動
○前時まで取組状況を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の種類</li> <li>・進行段階</li> <li>・活動規模</li> <li>・活動メンバー</li> </ul> ○本時の取組内容を確認する。	◆進行順や取組方法、お互いの状況が把握できるように掲示したりデータを共有したりする。	●国際理解の活動
<b>【課題】</b> 世界につながる第一歩として、学園・家庭・地域で提案・実践・改善を繰り返し、意識の向上につなげよう。		
○それぞれの取組を進める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象の実態を調査する</li> <li>・提案内容を考える</li> <li>・提案方法を考える</li> <li>・提案する</li> <li>・調査する</li> <li>・分析する</li> <li>・改善段階を考える</li> <li>・改善策を考える</li> <li>・再提案する</li> </ul>	◆個々の取組状況に必要な情報をデータで共有しておく。  □調べた知識や情報を活用し、提案・実践・改善に取り組んでいる。 （実際の活動の様子によるパフォーマンス評価）	●自己選択した課題を学園で達成するために、諸外国の取組を調べ、それらを手掛かりに、提案・実践・調査を繰り返す。  <b>【outcome活動】</b>
○指導者が構成したグループで、お互いの取組状況を報告・協議する。	◆より多くの情報を共有するために、指導者が計画的に構成したグループで行う。	●お互いの取組状況について報告・協議し、よりよい手だてを探る。  <b>【output活動】</b>
<b>【まとめ】</b> お互いの実践や反省から、より効果的な提案にいかせる視点・手だてを整理し、次の活動の見通しをもつ。		
○振り返りシートに記入する <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに関する気づき</li> <li>・取組の手立てなどに関する気づき</li> </ul>		●お互いの取組から、自分の実践にいかせる内容を整理する。  <b>【intake活動】</b>

